

高齢者の暮らしと介護に関するアンケート調査結果報告書<抜粋>

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、高齢者を取り巻く環境や意識、介護についての考え方などを把握し、第10次島田市高齢者保健福祉計画（第9期島田市介護保険事業計画）策定のための基礎資料とするため実施しました。実施にあたっては、①一般高齢者調査、②要支援認定者調査、③要介護認定者調査の3区分で調査を行いました。

2 調査の設計

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		在宅介護実態調査
	①一般高齢者調査	②要支援認定者調査	③要介護認定者調査
調査地域	島田市内全域		
調査対象	市内在住で、要介護認定・要支援認定を受けていない65歳以上の高齢者	市内在住で在宅の、要支援認定を受けている方及び事業対象者※	市内在住で在宅の、要介護認定を受けている方
標本数	1,800	1,000	1,200
抽出方法	無作為抽出		
調査方法	郵送配布・郵送回収		
調査期間	令和4年12月8日～12月28日		

※事業対象者とは、「介護予防・日常生活支援サービス事業対象者」をいいます。

3 回収状況

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		在宅介護実態調査
	①一般高齢者調査	②要支援認定者調査	③要介護認定者調査
発送数	1,800	1,000	1,200
回収数	1,183	623	614
有効回収数※	1,183	619	600
有効回収率	65.7%	61.9%	50.0%

※有効回収数とは、調査票に全く記入の無い白票や回答が著しく少ないものを除いた数です。

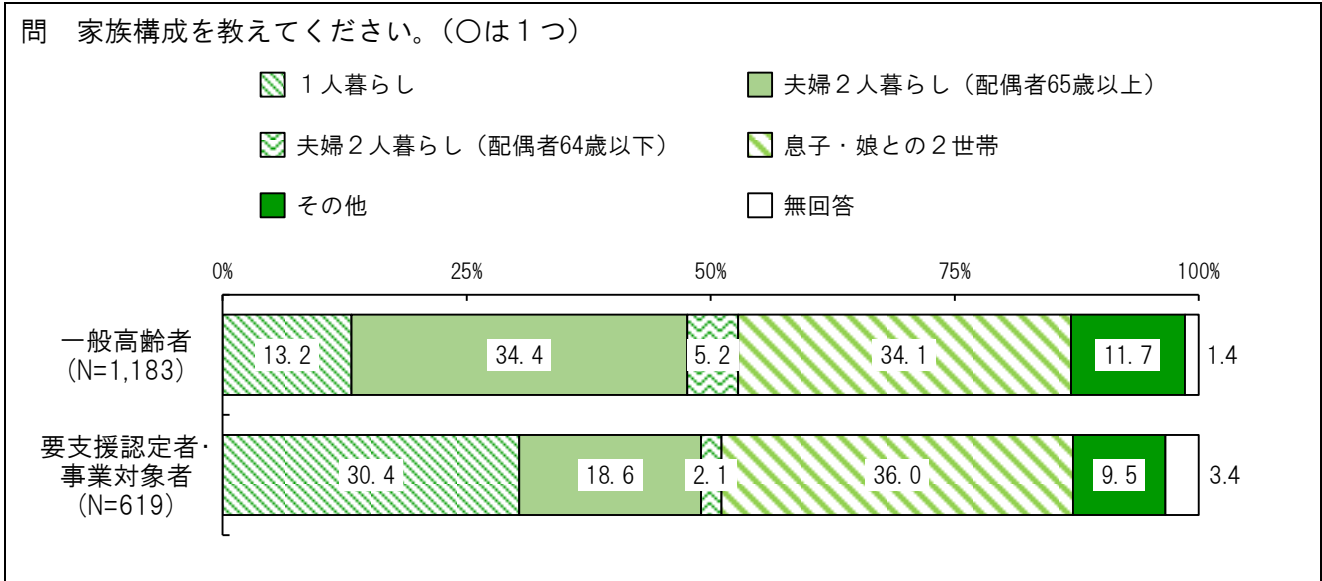
4 報告書を見る際の注意事項

- ・比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、百分比の合計が100%にならないことがあります。
- ・基数となるべき調査数は、Nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。
- ・複数の回答が許されている設問においては、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・調査結果の表中においては、行ごとに回答の割合が最も多い項目を網掛け、2番目に多い項目を太字としています。

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査(一般高齢者調査/要支援認定者調査)

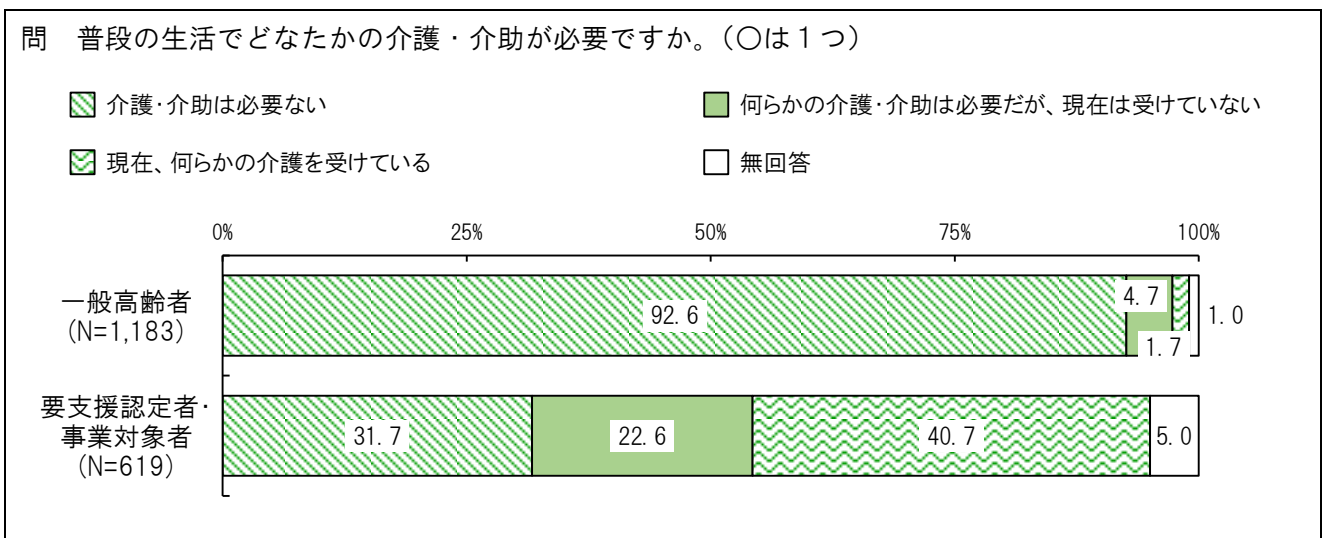
1 世帯構成と介護の状況

【一般高齢者 問2 / 要支援認定者 問2】



・世帯の状況では、1人暮らしの割合は、一般高齢者で13.2%、要支援認定者等で30.4%でした。

【一般高齢者 問3 / 要支援認定者 問3】



・普段の生活での介護の必要度については、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた、「何らかの介護・介助が必要」な人は、一般高齢者では6.4%、要支援認定者等では63.3%となりました。

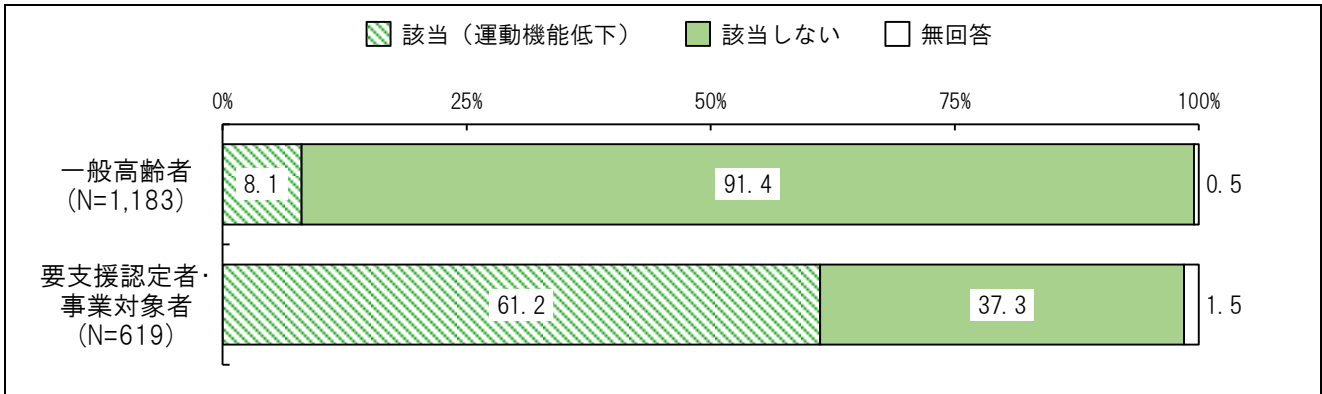
【総括コメント】

○支援が必要な高齢者への対応が必要

孤独・孤立の社会問題化は県の方針でも課題と指摘されており、要支援認定者において約3割が1人暮らしであること、約6割が何らかの介護・介助が必要であることから、今後の高齢化率の進行を踏まえると、支援が必要な高齢者が増加することが予想されます。

2 運動機能低下状況と転倒リスク

運動機能低下状況について

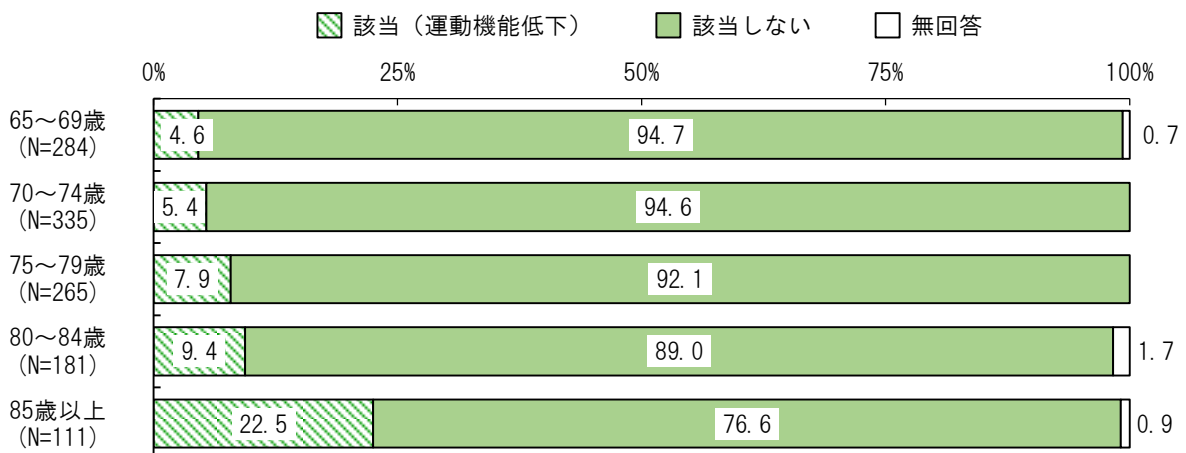


11から15の5問中3問以上、次の網掛けの選択肢が回答された場合に、運動機能が低下していると判定します。

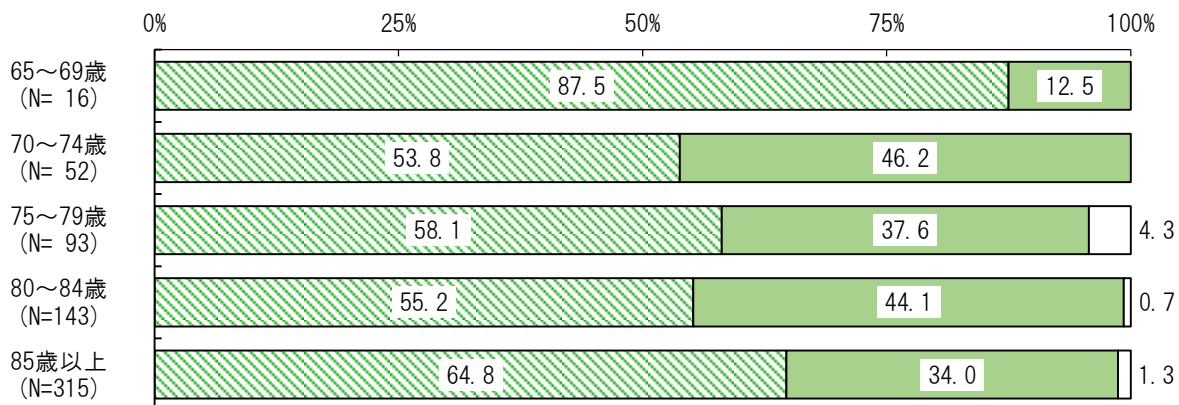
設問内容	選択肢
11 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか	3 できない
12 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	3 できない
13 15分位続けて歩いているか	3 できない
14 過去1年間に転んだ経験があるか	1 何度もある 2 1度ある
15 転倒に対する不安は大きいか	1 とても不安である 2 やや不安である

年齢別 運動機能低下の該当状況

一般高齢者

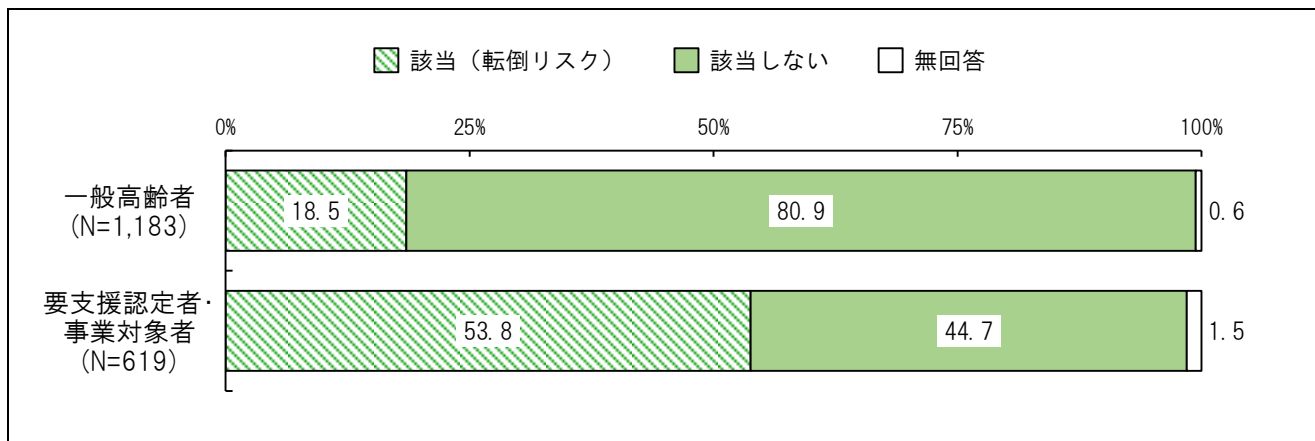


要支援認定者・事業対象者



・運動機能については、一般高齢者の8.1%、要支援認定者等の61.2%が運動機能の低下（設問11～15の3問以上に該当）に該当し、一般高齢者でも85歳以上になると22.5%が該当しました。

転倒リスクについて

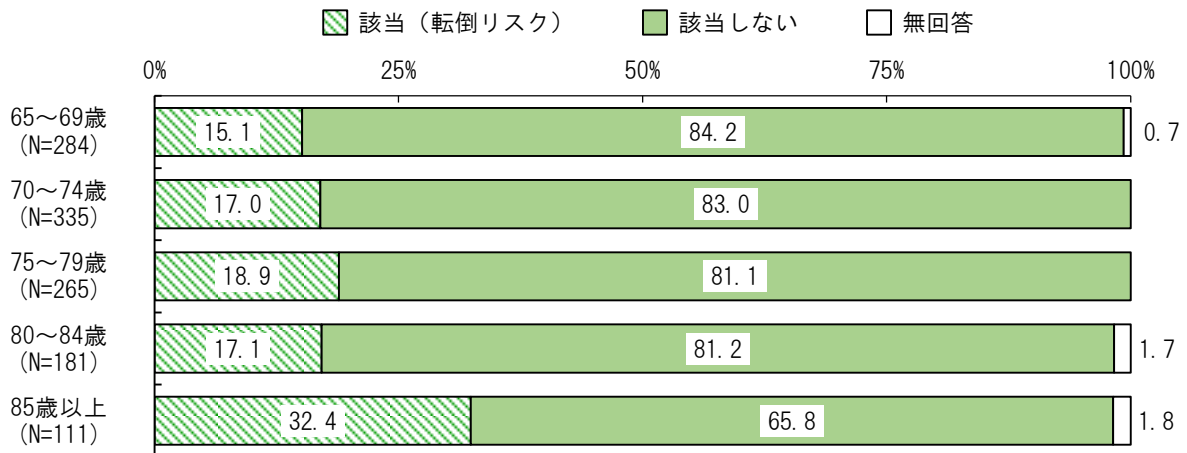


14、15の2問で、次の網掛けの選択肢が回答された場合に、転倒リスクが高いと判定します。

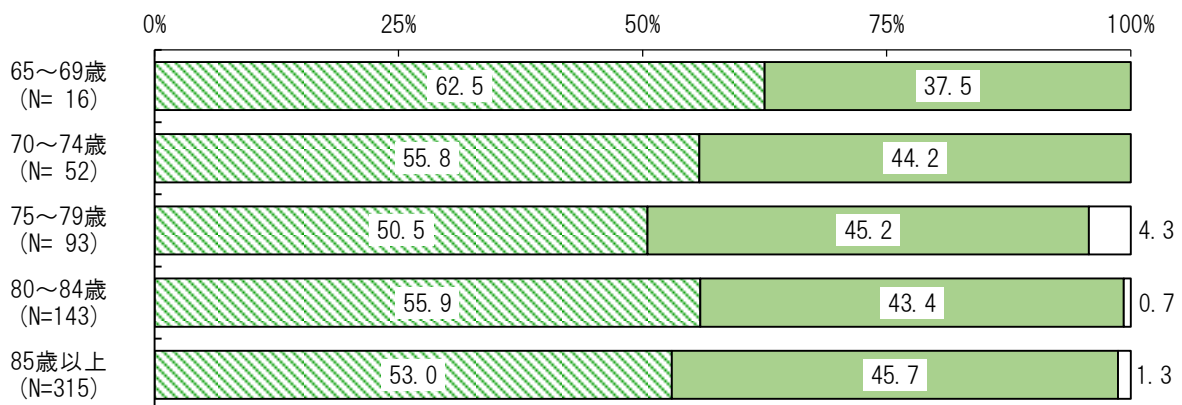
設問内容	選択肢
14 過去1年間に転んだ経験があるか	1 何度もある
	2 1度ある
15 転倒に対する不安は大きい	1 とても不安である
	2 やや不安である

年齢別 転倒リスクの該当状況

一般高齢者



要支援認定者・事業対象者



- ・転倒リスクについては、一般高齢者では18.5%、要支援認定者等では53.8%が該当し、年齢別にみると、転倒リスクに該当する人の割合は、一般高齢者では85歳以上が最も高い年齢層に対し、要支援認定者等では65～69歳が最も高く、他の年齢区分では約半数が該当となりました。

【総括コメント】

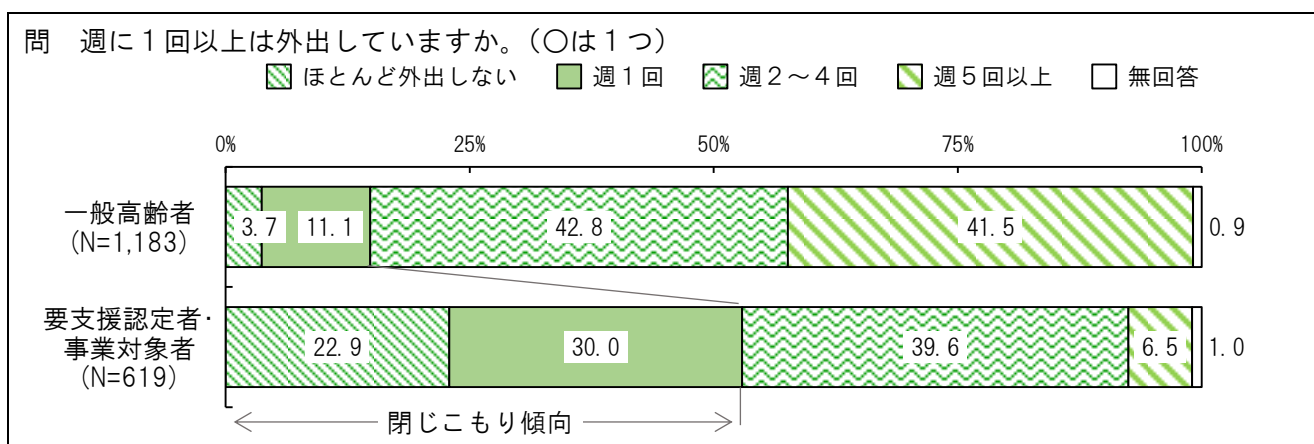
○要支援者では年代にかかわらず転倒リスクが高い

高齢者の転倒は大きな怪我等につながり、たった一度の転倒でも寝たきりにつながることもあるため、高齢者の転倒リスクを下げる取組が重要です。要支援認定者等の61.2%が運動機能の低下に該当し、転倒リスクは全ての年代で約半数が該当しています。

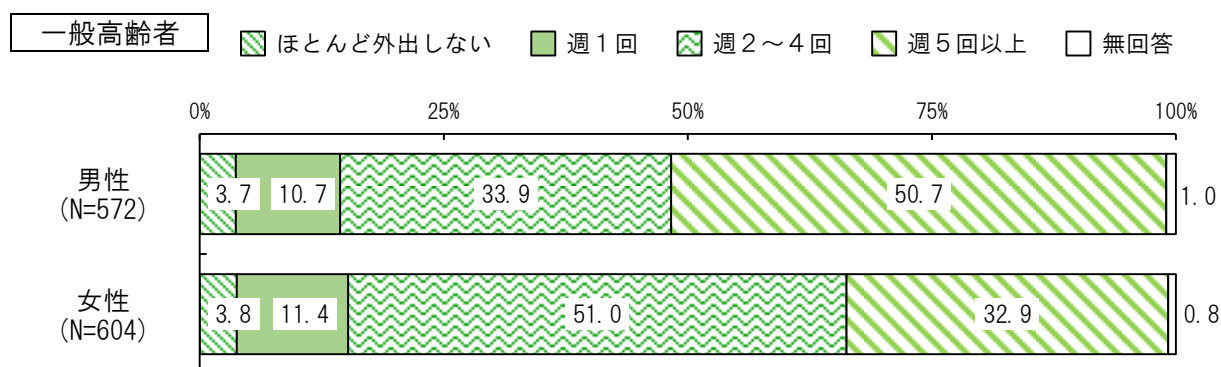
3 閉じこもり傾向

設問18は、閉じこもり傾向を問う設問です。「ほとんど外出しない」「週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者になります。

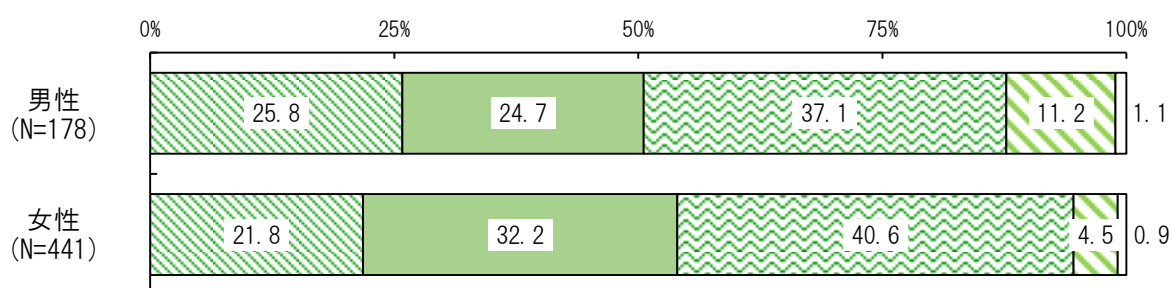
【一般高齢者 問12 / 要支援認定者 問12】



性別 週に1回以上は外出しているか



要支援認定者・事業対象者



・外出頻度については、一般高齢者の14.8%、要支援認定者等の52.9%が閉じこもり傾向とされる「ほとんど外出しない」または「週1回」と回答しました。性別にみると、閉じこもり傾向のある人は、一般高齢者、要支援認定者等ともに女性の方がやや多くなりました。

【総括コメント】

○閉じこもり傾向は女性の方がやや多い

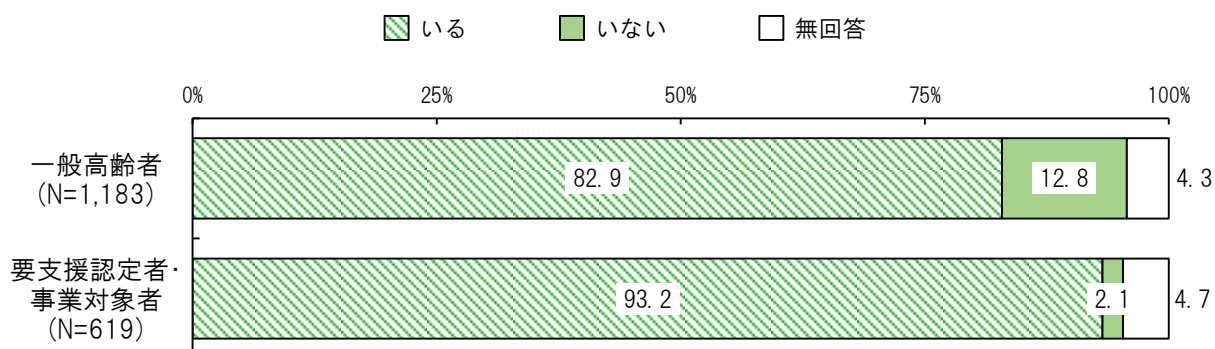
県の指針において、高齢者の移動ニーズを把握することが課題と指摘されています。要支援認定者等の52.9%が閉じこもり傾向にあり、女性の方が男性よりやや閉じこもり傾向が多くなっていることから、要支援者や女性を中心に移動ニーズを把握することが必要です。

4 かかりつけ医の有無

【一般高齢者 問25 / 要支援認定者 問25】

問 かかりつけ医がいますか。①～③にそれぞれ1つ回答してください。

①医師



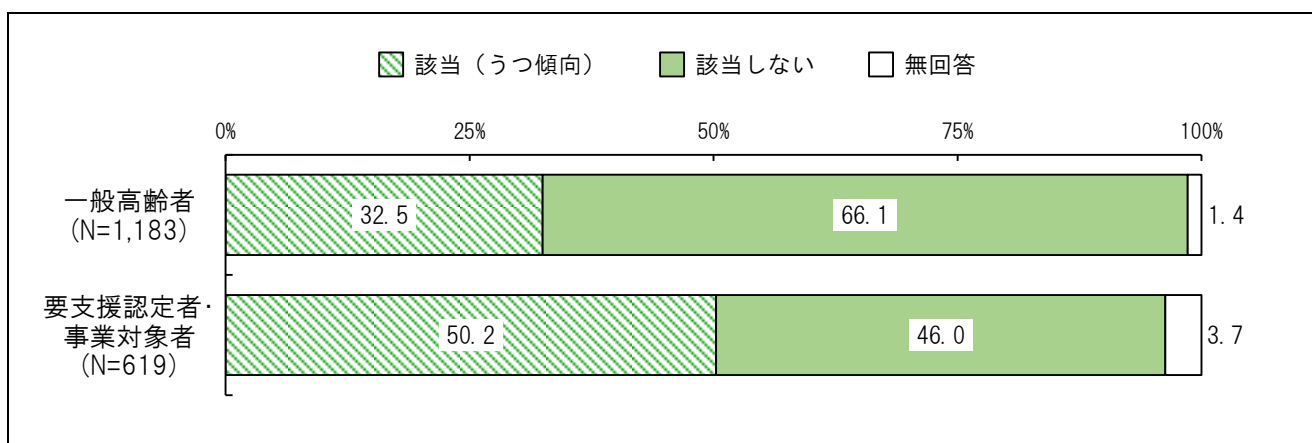
・かかりつけ医師が「いる」人は、一般高齢者、要支援認定者等ともに8割を超えました。

【総括コメント】

○かかりつけ医がいる割合は約8割

かかりつけ医を持つことは全国的に推奨されています。かかりつけ医師が「いる」人は、一般高齢者、要支援認定者等ともに8割を超えており、今後も増加させる取組を展開することが重要です。

5 心の健康

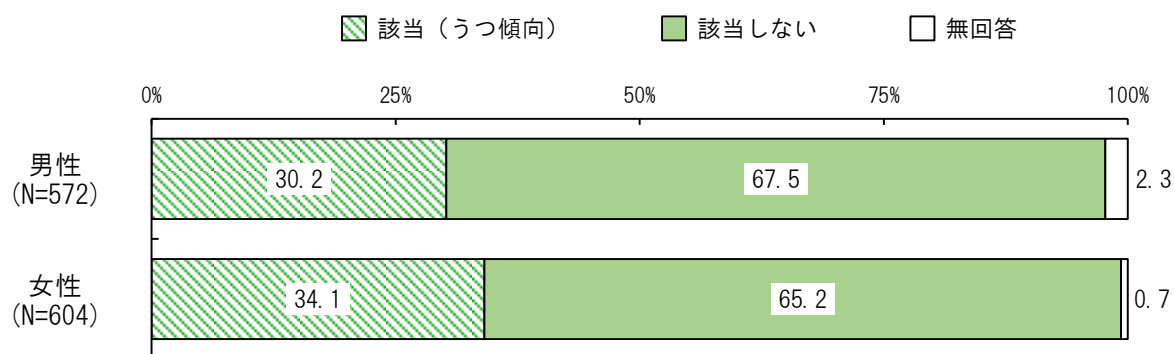


40、41の2問で、いずれか1つでも次の網掛けの選択肢が回答された場合に、うつ傾向と判定します。

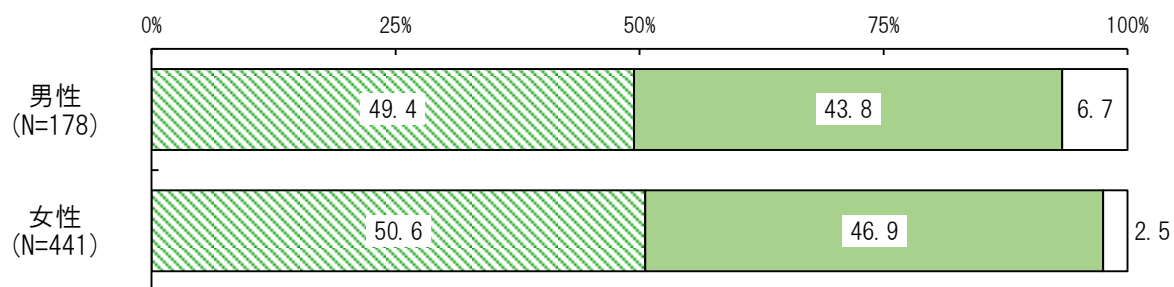
設問内容	選択肢
40 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになるか	1 はい
41 物事に対して興味がわかないことなどがあるか	1 はい

うつ傾向の該当状況

一般高齢者



要支援認定者・事業対象者



・「うつ傾向」（設問40、41のいずれか一つでも該当）は、一般高齢者では32.5%、要支援認定者等では50.2%となりました。性別にみると、要支援認定者等では男性で49.4%、女性で50.6%が「うつ傾向」となりました。

【総括コメント】

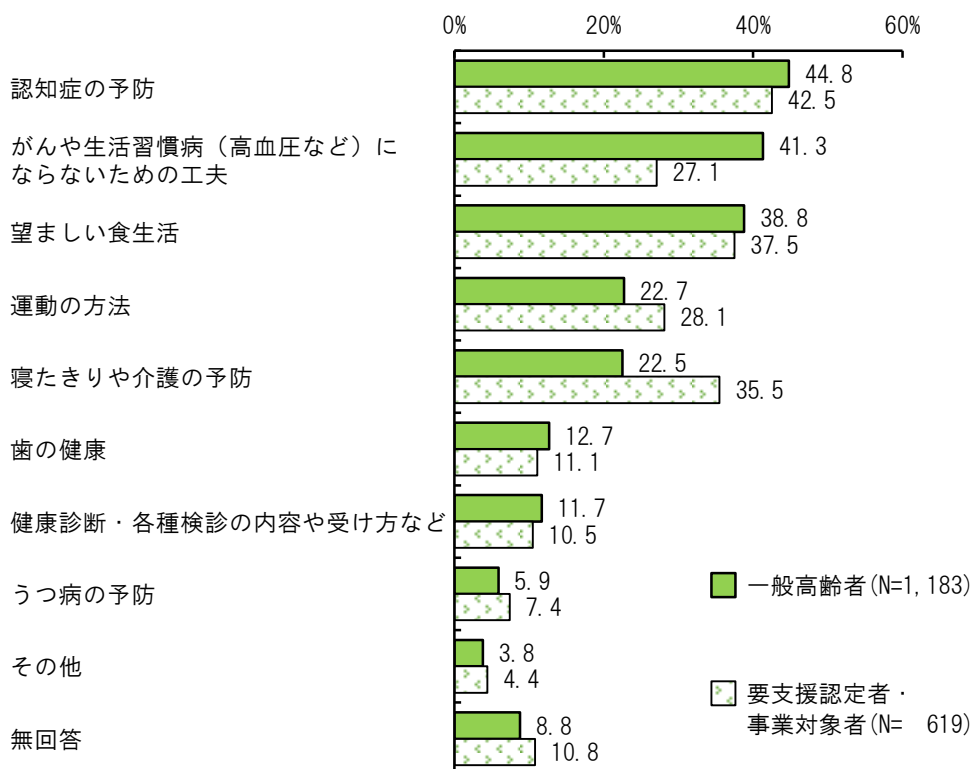
○要支援認定者の心身の健康への支援が必要

心身の健康は介護度の上昇に寄与するため、県の指針でも指摘されている要介護認定者や総合事業対象者の増加という課題に直結します。要支援認定者等において、「うつ傾向」にある割合が50.2%となっており、要支援者の心の健康への支援が必要です。

6 健康について知りたいこと

【一般高齢者 問33 / 要支援認定者 問33】

問 健康について、どのようなことが知りたいですか。(〇は3つまで)



・健康について知りたいことでは、一般高齢者では「認知症の予防」、「がんや生活習慣病にならないための工夫」、「望ましい食生活」が多くあげられました。一方で、要支援認定者等では「認知症の予防」に次いで、「望ましい食生活」、「寝たきりや介護の予防」が多くなりました。

【総括コメント】

○認知症予防の関心が高い

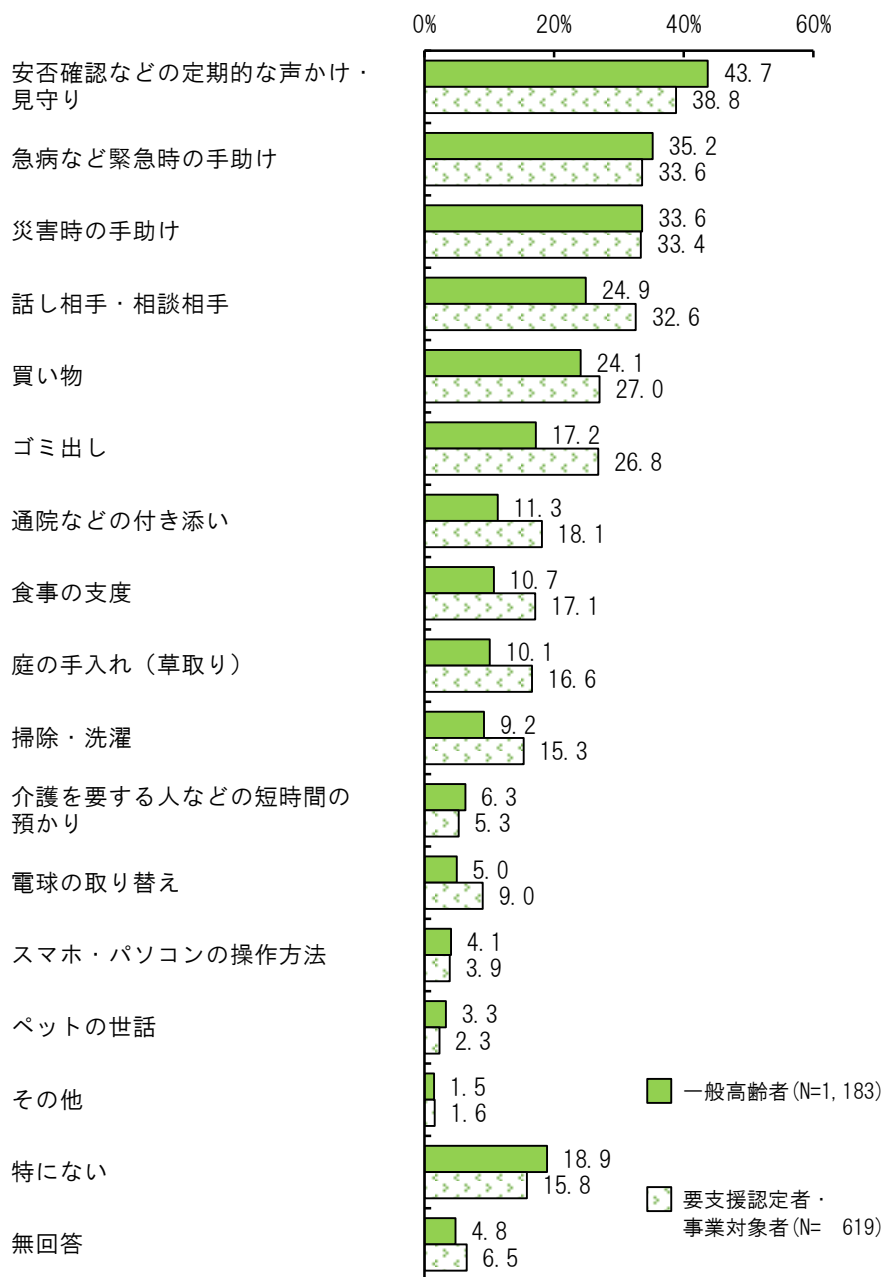
一般高齢者、要支援認定者どちらにおいても認知症の予防について知りたいという割合が高くなっています。一方で認知症の相談窓口を知っている割合はともに14%程度になっており、予防と合わせて相談先の周知が必要であることがわかります。

7 助け合い

日常生活上の支援が必要になったときに近所に望む支援

【一般高齢者 問43 / 要支援認定者 問41】

問 あなたやご家族に日常生活上の支援が必要になったとき、近所の人にどのような支援をしてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

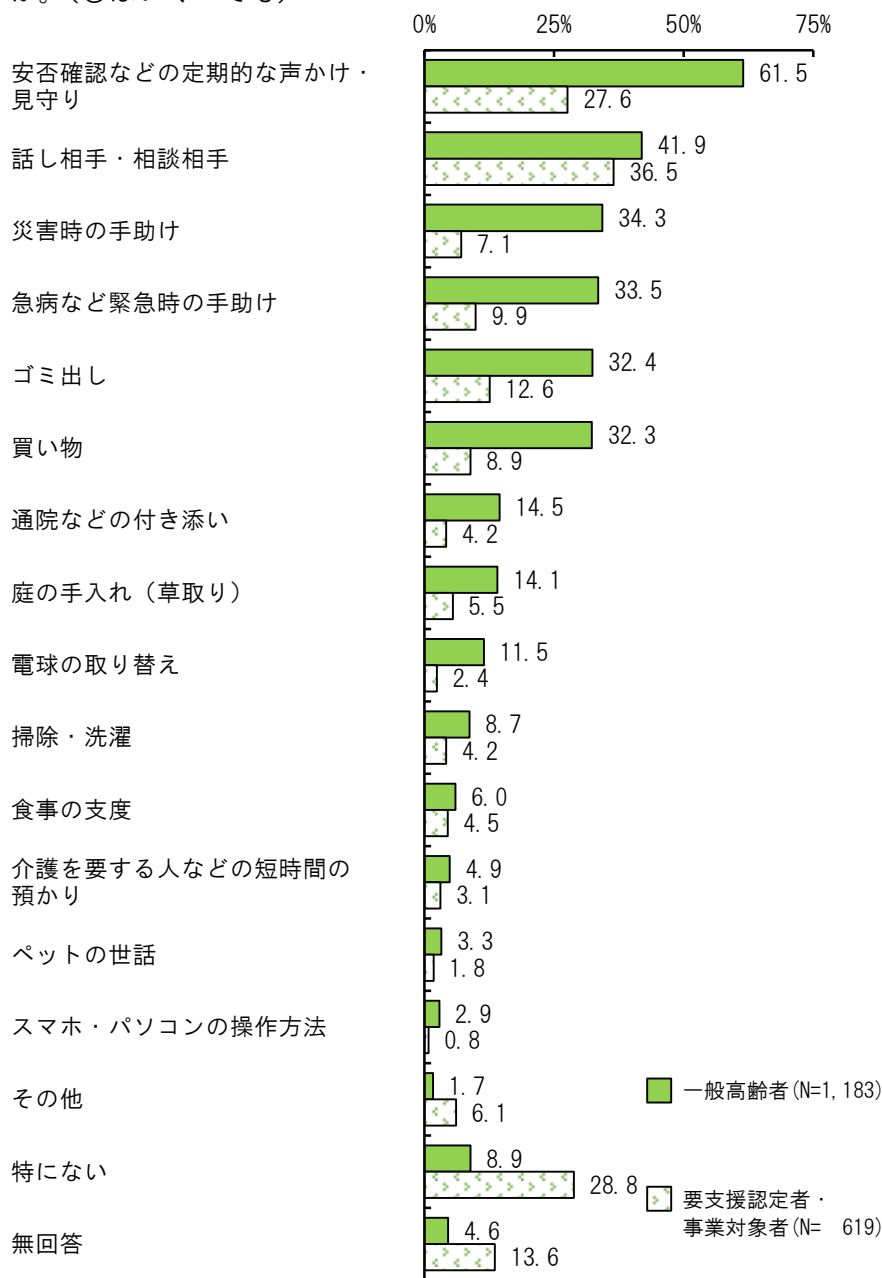


・日常生活上の支援が必要になったときに近所に“してほしい支援”では、一般高齢者、要支援認定者等ともに、「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」、「急病など緊急時の手助け」、「災害時の手助け」が多くなりました。

近所の高齢や病気・障がいなどで困っている人に対してできる支援

【一般高齢者 問44 / 要支援認定者 問42】

問 近所に、高齢や病気・障がいなどで困っている人がいた場合、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(○はいくつでも)



・近所の高齢や病気・障がいなどで困っている人に対して“できる支援”では、一般高齢者では「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」が61.5%、要支援認定者等では「話し相手・相談相手」が36.5%と最も多くなりました。

【総括コメント】

○安否確認などの定期的な声かけ・見守りは地域住民の助け合いで実現

日常生活上の支援が必要になったときに近所に“してほしい支援”と“できる支援”は、一般高齢者では「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」が“してほしい支援”と“できる支援”の両方で最も多くなっており、地域住民の助け合いで実現できる可能性があると考えられます。

8 高齢者あんしんセンター

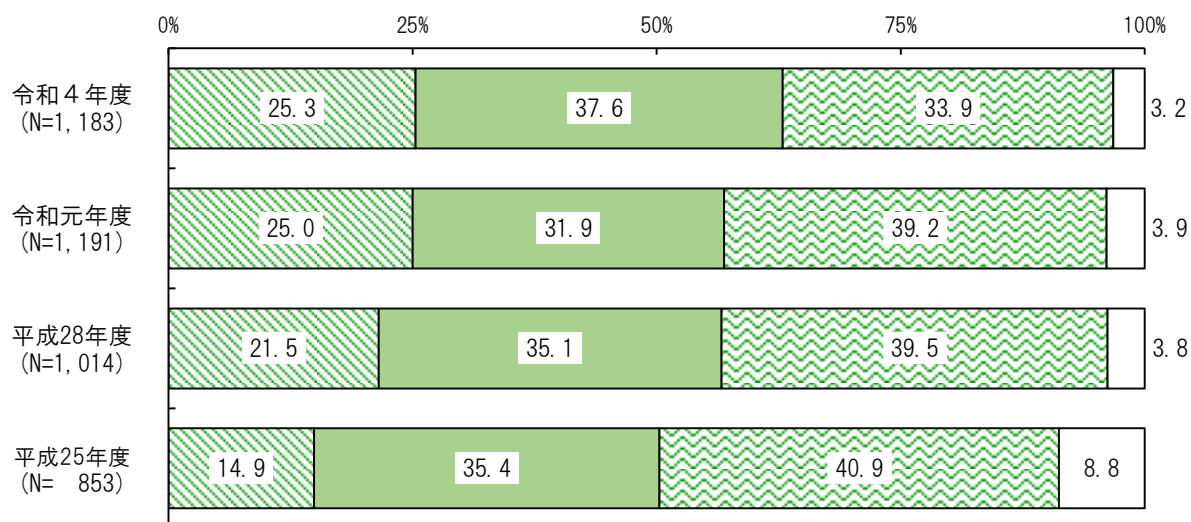
高齢者あんしんセンターの認知

【一般高齢者 問46 / 要支援認定者 問44】

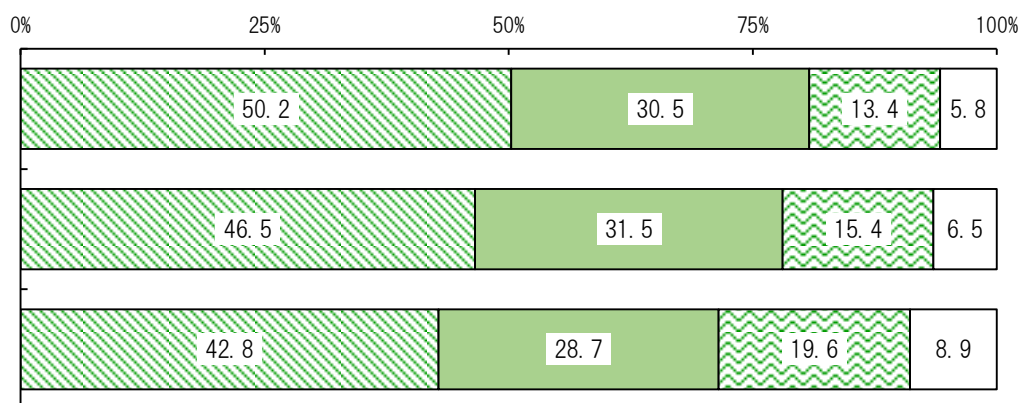
問 高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）を知っていますか。（○は1つ）

一般高齢者

役割を知っている
 名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない
 知らない
 無回答



要支援認定者・事業対象者

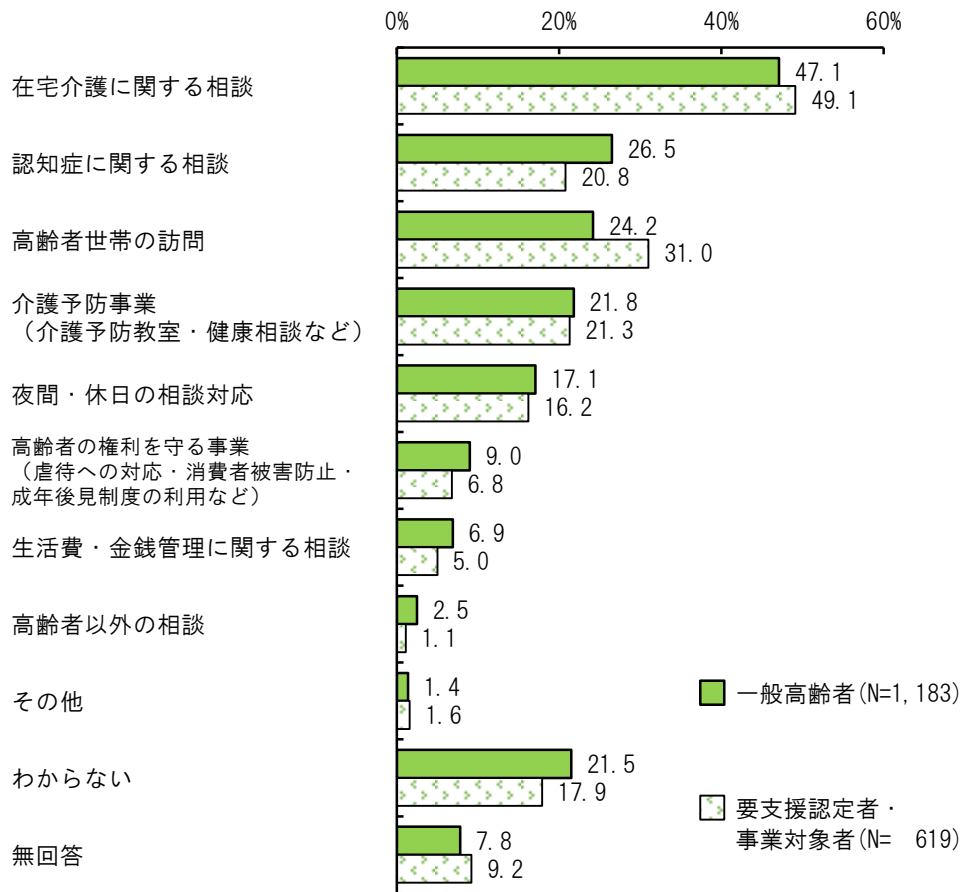


・高齢者あんしんセンターの認知度については、「役割を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」を合わせた“知っている”は、一般高齢者では62.9%、要支援認定者等では80.7%となりました。前回調査と比較すると、令和元年度の調査で“知っている”が一般高齢者では56.9%、要支援認定者等では78.0%だったことから、ともに認知度はやや向上しました。

高齢者あんしんセンターに特に力を入れてほしい事業

【一般高齢者 問47 / 要支援認定者 問45】

問 今後、高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）に特に力を入れてほしい事業は何ですか。
（〇は3つまで）



・高齢者あんしんセンターに特に力を入れてほしい事業では、一般高齢者では「在宅介護に関する相談」、「認知症に関する相談」、「高齢者世帯の訪問」が多く、要支援認定者等では「在宅介護に関する相談」、「高齢者世帯の訪問」、「介護予防事業（介護予防教室・健康相談など）」が多くなりました。

【総括コメント】

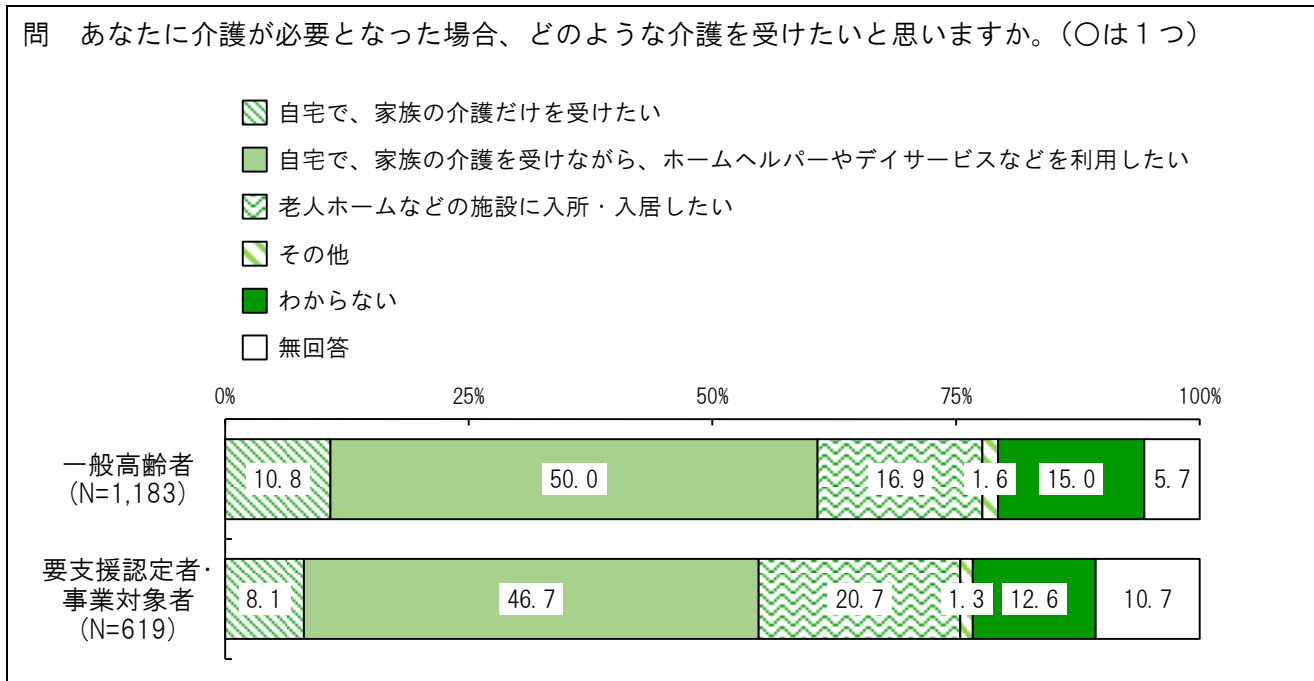
○高齢者あんしんセンターの認知度の上昇、在宅介護のニーズが高い傾向

高齢者あんしんセンターの認知度は一般高齢者では62.9%、要支援認定者等では80.7%となっており、令和元年度の調査から比べて認知度は上昇しています。また、力を入れてほしい事業では「在宅介護に関する相談」が最も多く、後述の自宅で介護を受けたい割合が半数を超えることから、在宅介護をどのように実現すればよいのかという意識が高いことがわかります。

9 今後の暮らし

どのような介護を受けたいか

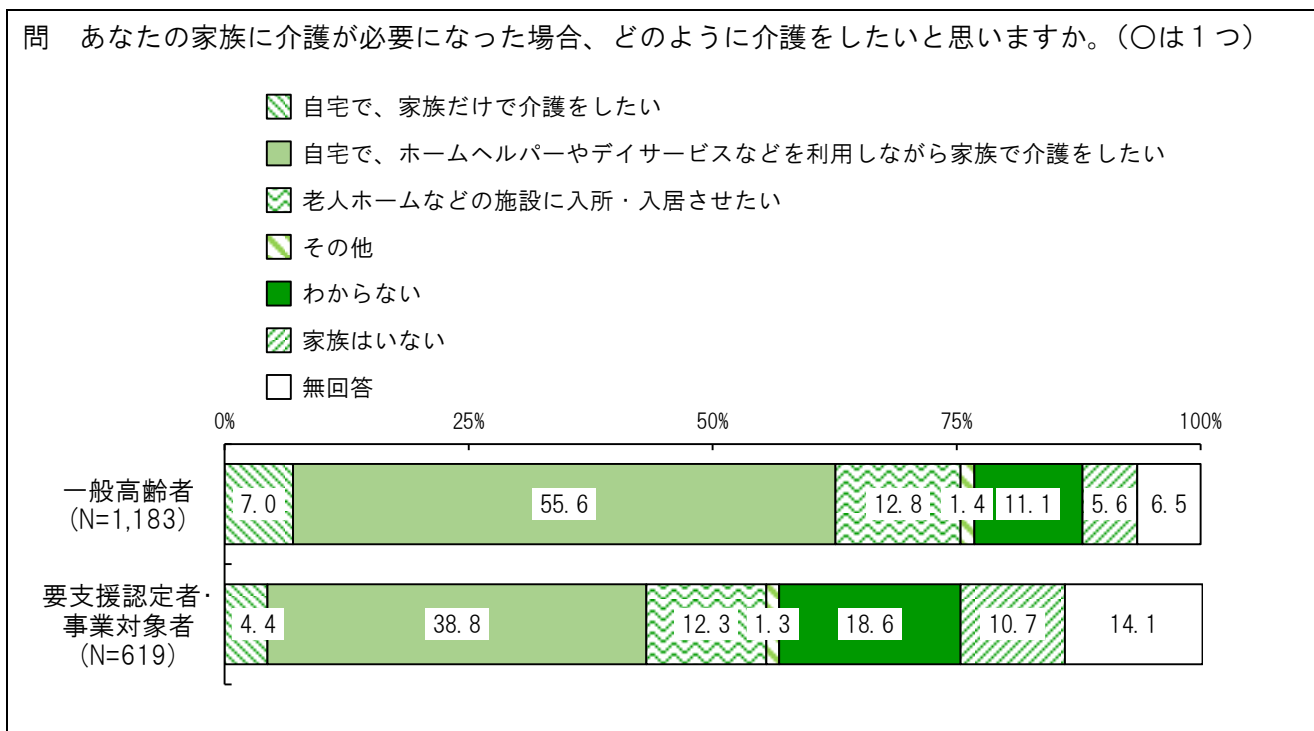
【一般高齢者 問54 / 要支援認定者 問53】



・どのような介護を受けたいかでは、「自宅で、家族の介護だけを受けたい」と「自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用したい」を合わせた“自宅で介護を受けたい”は、一般高齢者で60.8%、要支援認定者等で54.8%となりました。

どのように介護をしたいか

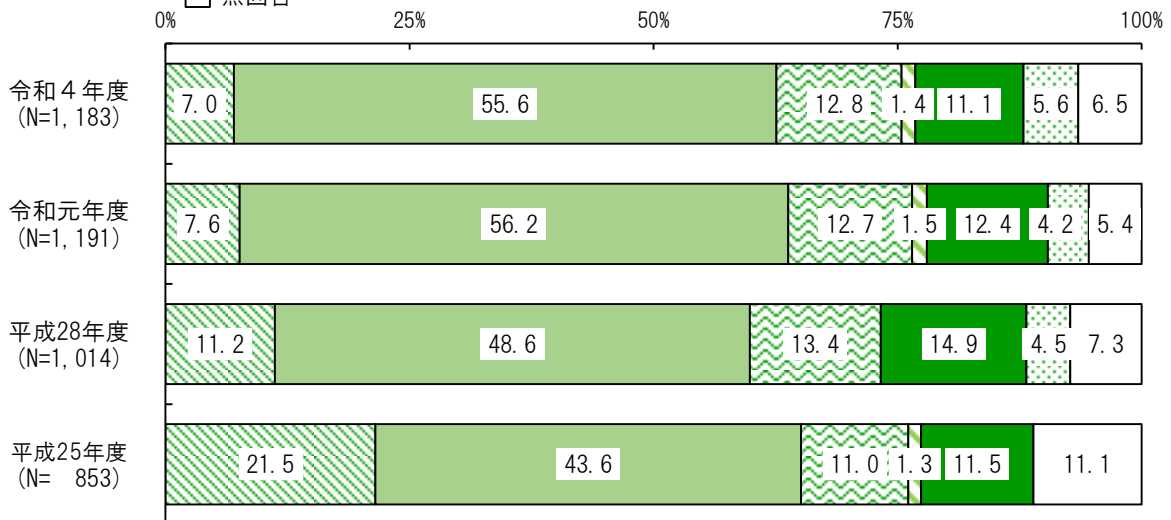
【一般高齢者 問55 / 要支援認定者 問54】



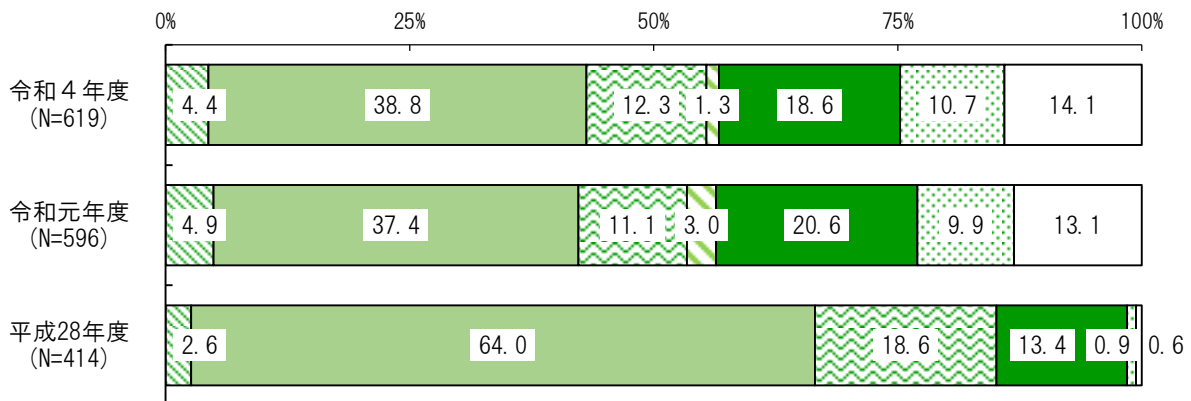
前回比較 どのように介護をしたいか

一般高齢者

- 自宅で、家族だけで介護をしたい※1
- 自宅で、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら家族で介護をしたい※2
- 老人ホームなどの施設に入所・入居させたい
- その他(平成28年度はなし)
- わからない
- 家族はいない
- 無回答



要支援認定者・事業対象者



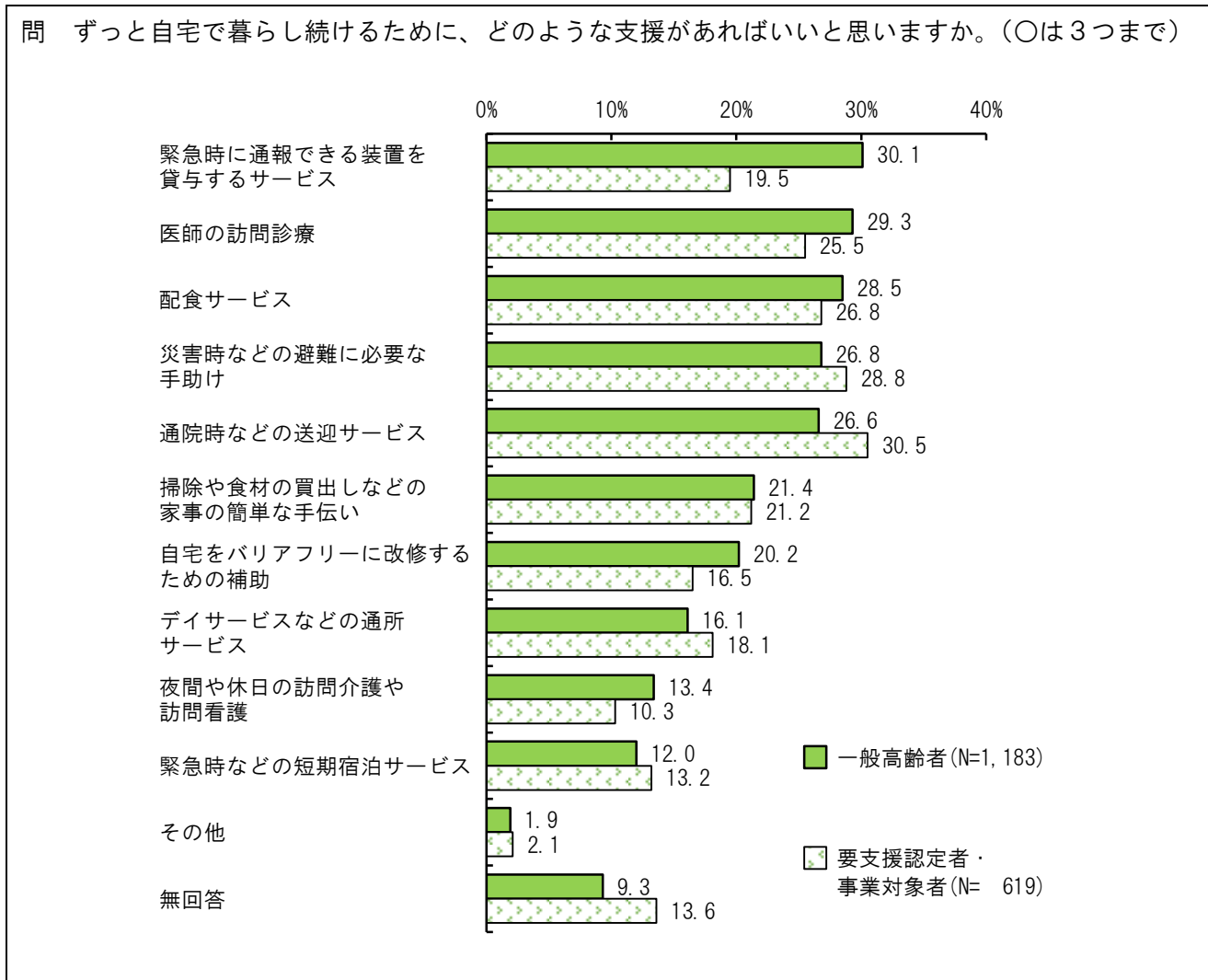
※1 平成28年度は「自宅で家族だけの介護を受けさせたい」、平成25年度は「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」

※2 平成28年度は「自宅で、介護保険サービス（ホームヘルパーなど）を活用しながら介護を受けさせたい」、平成25年度は「介護保険制度のサービスや福祉サービスを使いながら、自宅で介護したい」

・どのように介護をしたいかでは、「自宅で、家族だけで介護をしたい」と「自宅で、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら家族で介護をしたい」を合わせた“自宅で介護をしたい”は、一般高齢者で62.6%、要支援認定者等で43.2%となりました。経年でみると、一般高齢者では「自宅で、家族だけで介護をしたい」は年々減少傾向にあります。要支援認定者・事業対象者では令和元年度結果と同様の傾向となりました。

自宅で暮らし続けるために必要な支援

【一般高齢者 問57 / 要支援認定者 問56】



・自宅で暮らし続けるために必要な支援について、一般高齢者は、前回調査では「通院時などの送迎サービス」、「緊急時に通報できる装置を貸与するサービス」、「配食サービス」の順で多くなっていましたが、本調査では、「緊急時に通報できる装置を貸与するサービス」、「医師の訪問診療」、「配食サービス」の順で多くなりました。要支援認定者等は、前回調査では「通院時などの送迎サービス」、「災害時などの避難に必要な手助け」、「医師の訪問診療」の順で多くなっていましたが、本調査では、「通院時などの送迎サービス」、「災害時などの避難に必要な手助け」、「配食サービス」の順で多くなりました。

【総括コメント】

○自宅での介護の要望は高い一方で、一般高齢者で意識の変化がある

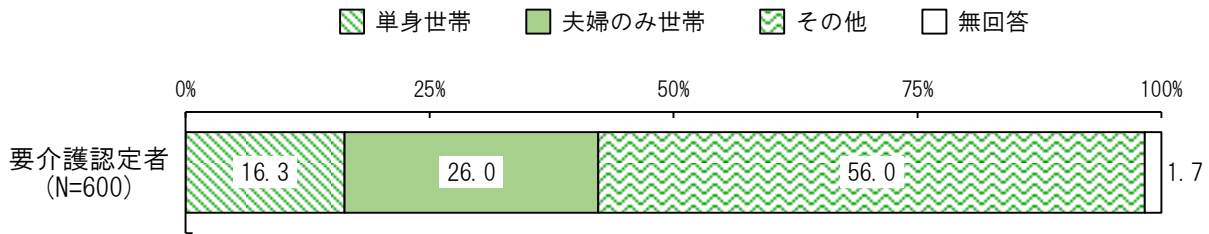
“自宅で介護を受けたい”は、一般高齢者で60.8%、要支援認定者等で54.8%と共に半数以上となっていますが、一般高齢者においては令和元年度調査と比較して減少傾向にあります。自宅で暮らし続けるために必要な支援においても、前回調査で最も多かった「通院時などの送迎サービス」が5番目になっており、一般高齢者の中では在宅介護の要望が変化していると考えられます。

Ⅲ 在宅介護実態調査（要介護認定者調査）

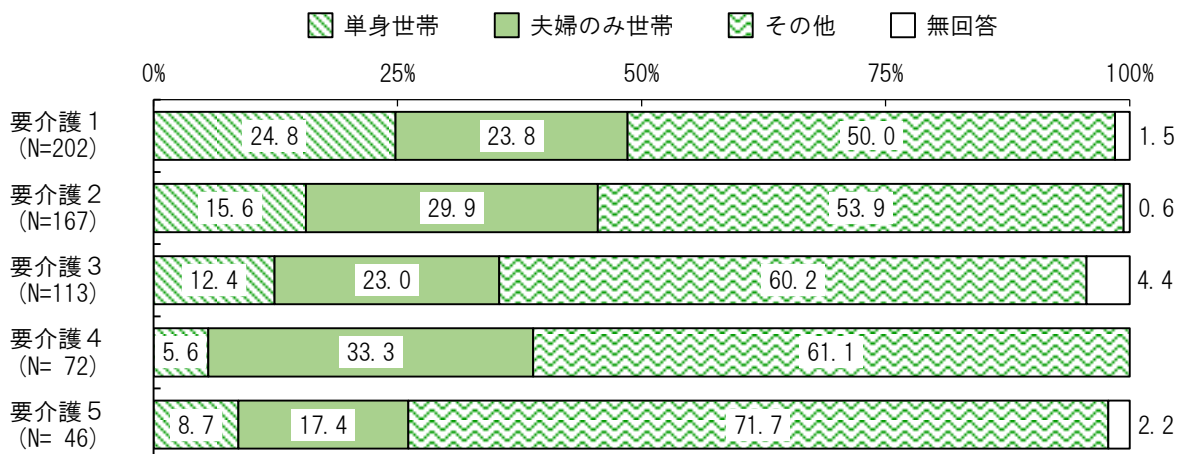
1 世帯構成

【要介護認定者 問2】

問 世帯の状況を教えてください。（○は1つ）



要介護度別 世帯構成



- ・世帯の状況については、単身世帯が16.3%、夫婦のみの世帯が26.0%、その他の世帯が56.0%で、要介護度が重くなるほど単身世帯は減少傾向にありました。

【総括コメント】

○要介護者で単身世帯が16%

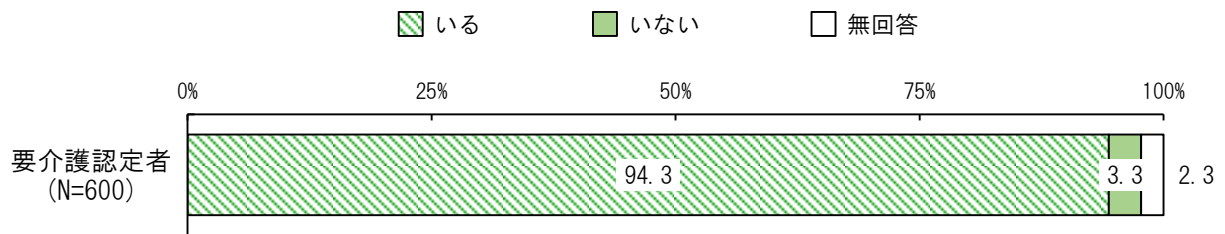
要介護認定者において、要介護度が重くなるほど単身世帯は減少傾向にあるものの、単身世帯が16.3%となっており、支援や介護が必要である一方で、単身で暮らす高齢者が一定程度いることがわかります。

2 かかりつけ医等の有無

【要介護認定者 問6】

問 かかりつけ医がいますか。①～③にそれぞれ1つ回答してください。

①医師



・かかりつけ医師が「いる」人は94.3%、かかりつけ医師が「いる」人のうち訪問診療を利用している人は、17.3%となりました。

【総括コメント】

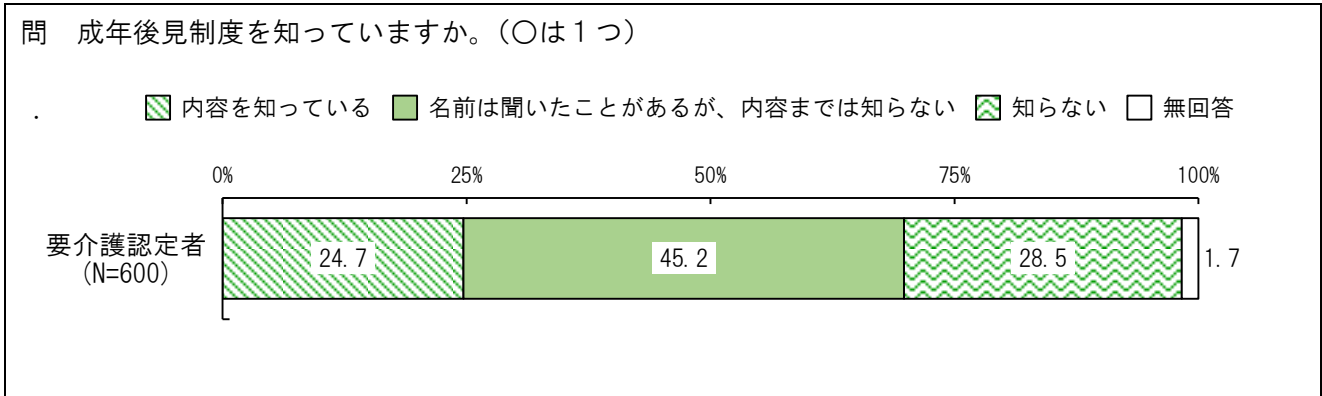
○かかりつけ医がいる割合は約9割以上

かかりつけ医を持つことは全国的に推奨されています。かかりつけ医師が「いる」人は、要介護認定者で8割を超えており、今後も100%目指して増加させる取組を展開することが重要です。

3 成年後見制度

成年後見制度の認知

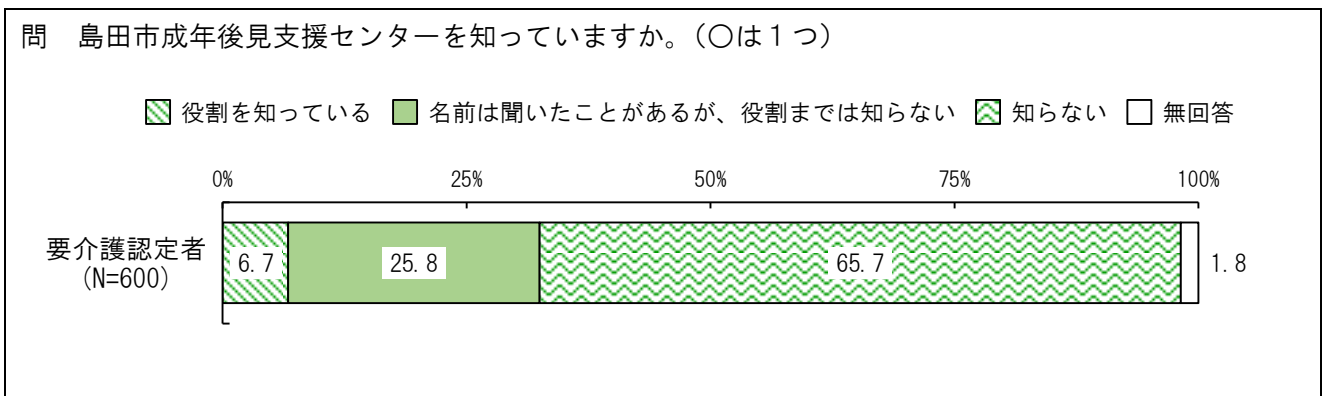
【要介護認定者 問13】



- ・成年後見制度を知っているかでは、「内容を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」を合わせた“知っている”は、69.9%となりました。前回調査と比較すると、「知らない」が減少し、“知っている”は、10ポイント以上増加しています。

島田市成年後見支援センターの認知

【要介護認定者 問14】



- ・島田市成年後見支援センターの認知度については、「役割を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」を合わせた“知っている”は、32.5%となりました。前回調査と比較すると、「知らない」が減少し、“知っている”は、10ポイント以上増加しています。

【総括コメント】

○成年後見制度の認知度は半数以上、市の事業の認知は低い一方で、認知度は上昇

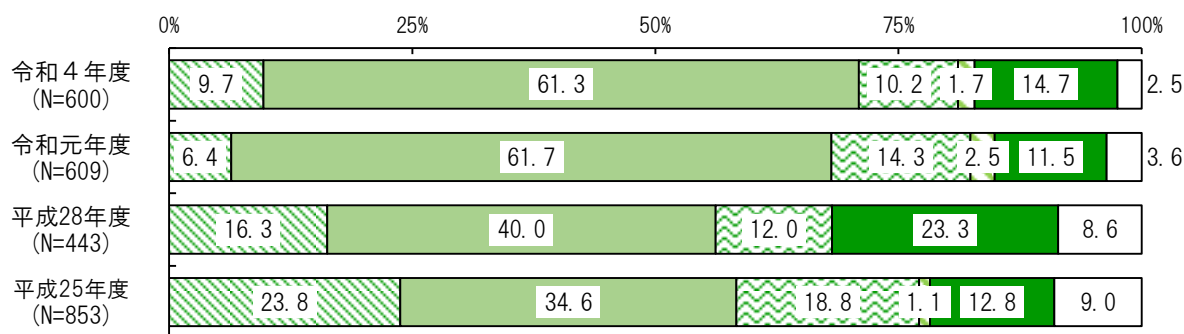
成年後見制度の認知度は69.9%、島田市成年後見支援センターの認知度については32.5%となっており、市の支援センターについての認知度が成年後見制度についての認知度より下回っていますが、前回調査と比較して共に認知度は10ポイント以上上昇しており、要介護認定者の認知度は高まってきているといえます。

4 今後の暮らし

【要介護認定者 問18】

問 あなたは、今後、どのような介護を受けたいと思いますか。(○は1つ)

- 自宅で、家族の介護だけを受けたい※1
- 自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用したい※2
- 老人ホームなどの施設に入所・入居したい
- その他（平成28年度はなし）
- わからない
- 無回答



※1 平成25年度は「なるべく家族のみで、自宅で介護してほしい」

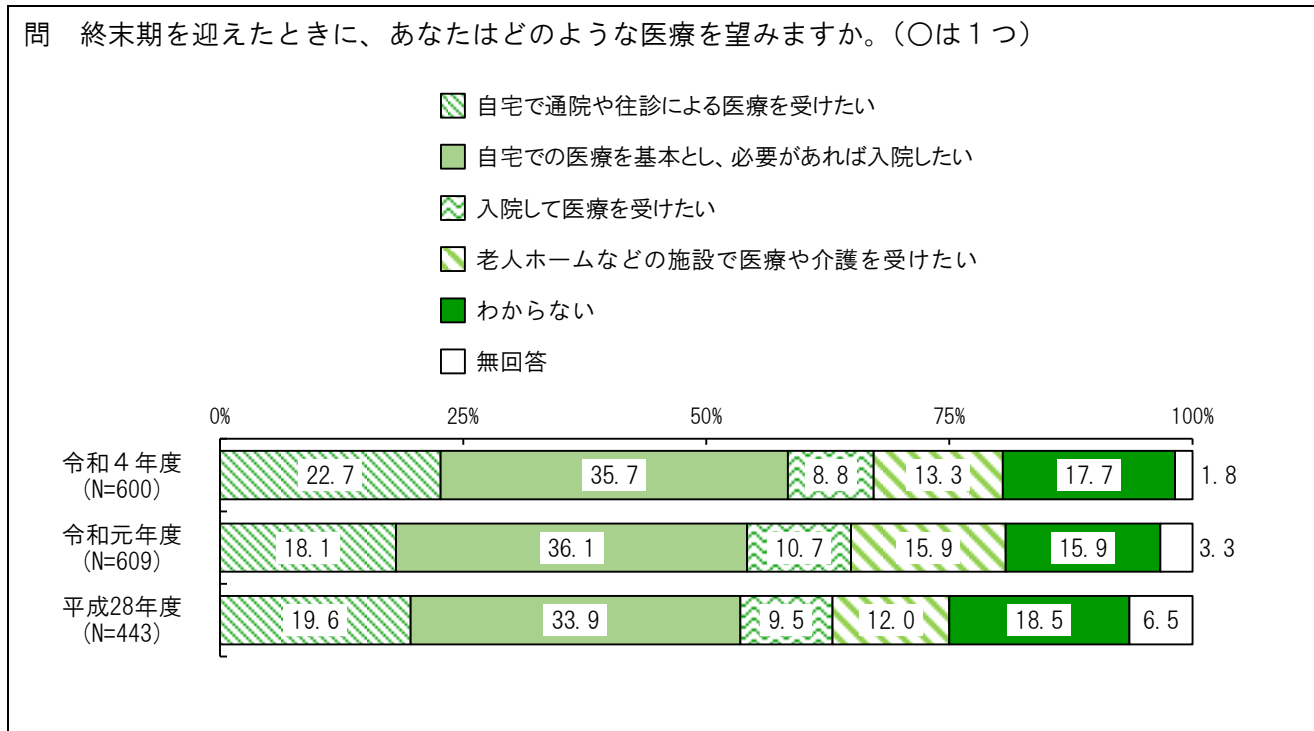
※2 平成28年度は「自宅で、介護保険サービス（ホームヘルパーなど）を活用しながら介護を受けたい」、平成25年度は「介護保険制度のサービスや福祉サービスを使いながら、自宅で介護してほしい」

- ・どのような介護を受けたいかでは、「自宅で、家族の介護だけを受けたい」と「自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用したい」を合わせた“自宅で介護を受けたい”は、71.0%となりました。前回調査と比較すると、「自宅で家族の介護だけを受けたい」は前回調査よりやや増加しています。

5 終末期

希望する終末期の医療

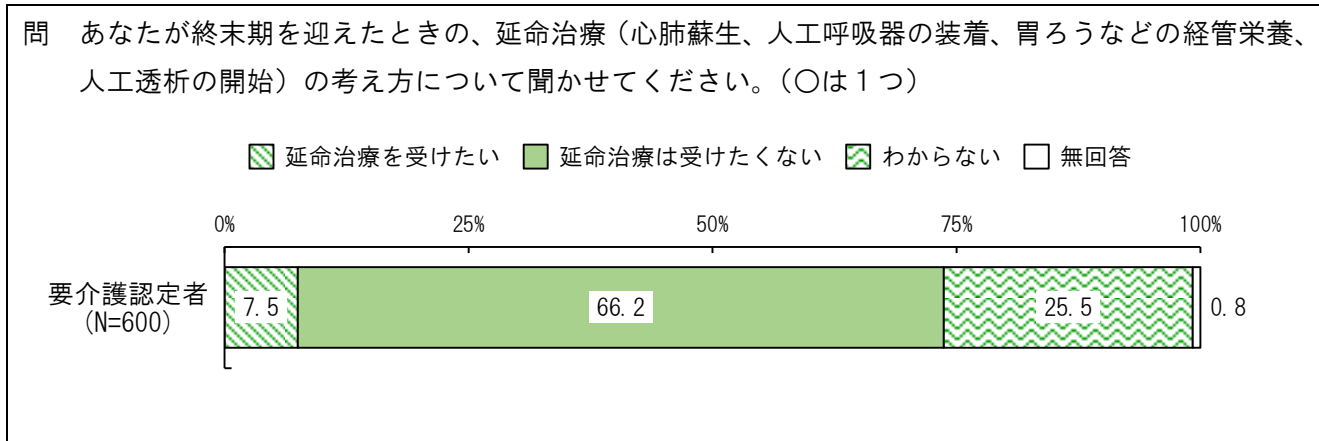
【要介護認定者 問20】



・希望する終末期の医療については、「自宅での医療を基本とし、必要があれば入院したい」が35.7%、次いで「自宅で通院や往診による医療を受けたい」が22.7%、「わからない」が17.7%となり、前回調査と比較すると、大きな差異はありませんでした。

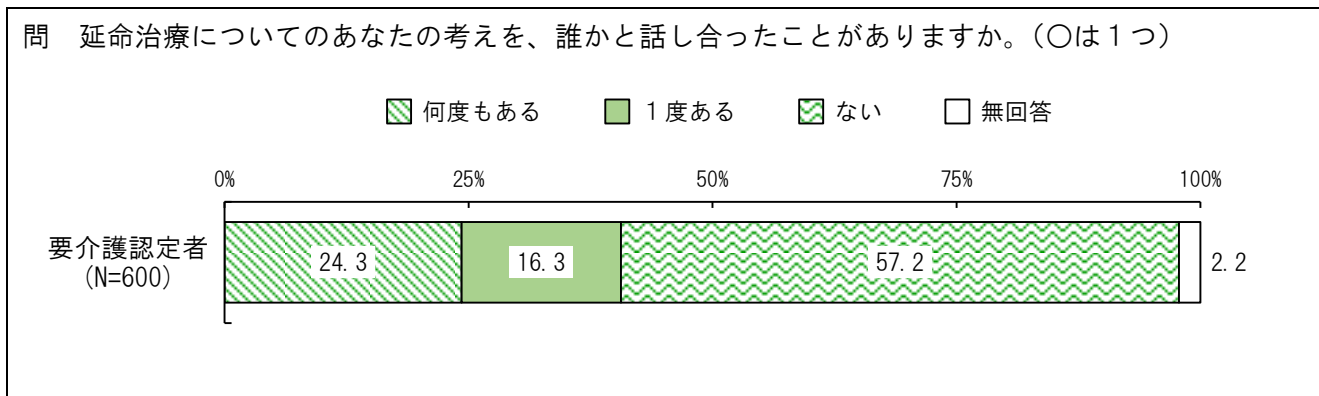
延命治療についての考え

【要介護認定者 問21】



延命治療について誰かと話し合ったことはあるか

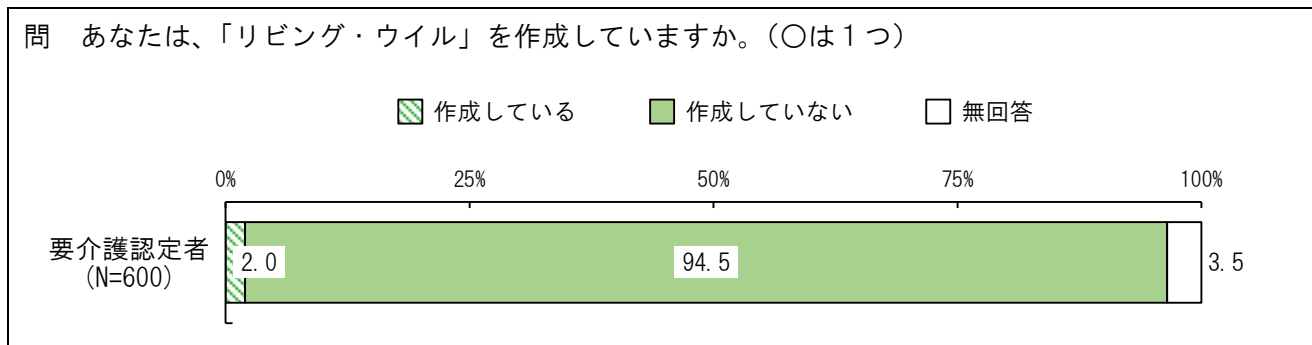
【要介護認定者 問22】



・延命治療についての考えでは、「延命治療は受けたくない」が66.2%と半数を超えました。延命治療についての考えを一度でも誰かと話し合ったことが「ある」と答えた人は、4割を超えました。

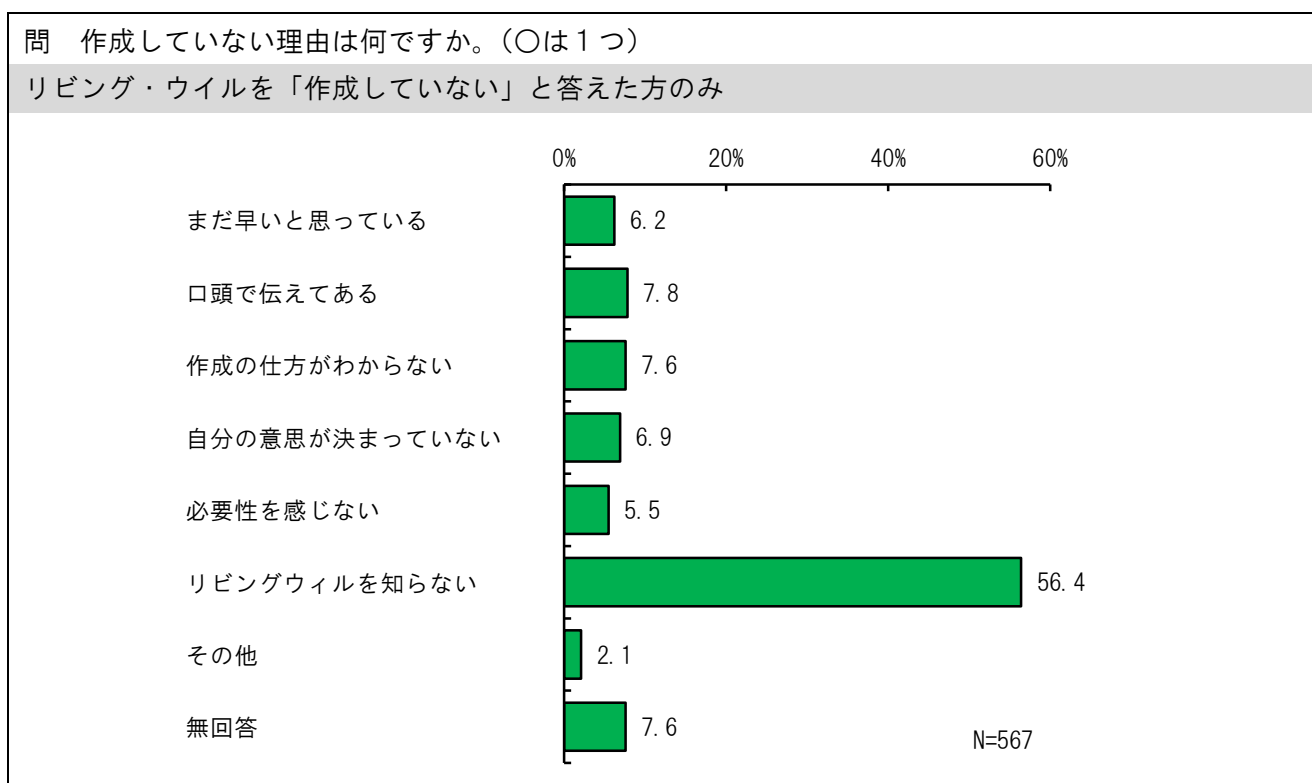
「リビング・ウイル」の作成状況

【要介護認定者 問23】



「リビング・ウイル」を作成していない理由

【要介護認定者 問23①】



・「リビング・ウイル」を作成しているかでは、「作成していない」が9割を超えています。作成していない理由については、「リビング・ウイルを知らない」が半数を超えました。

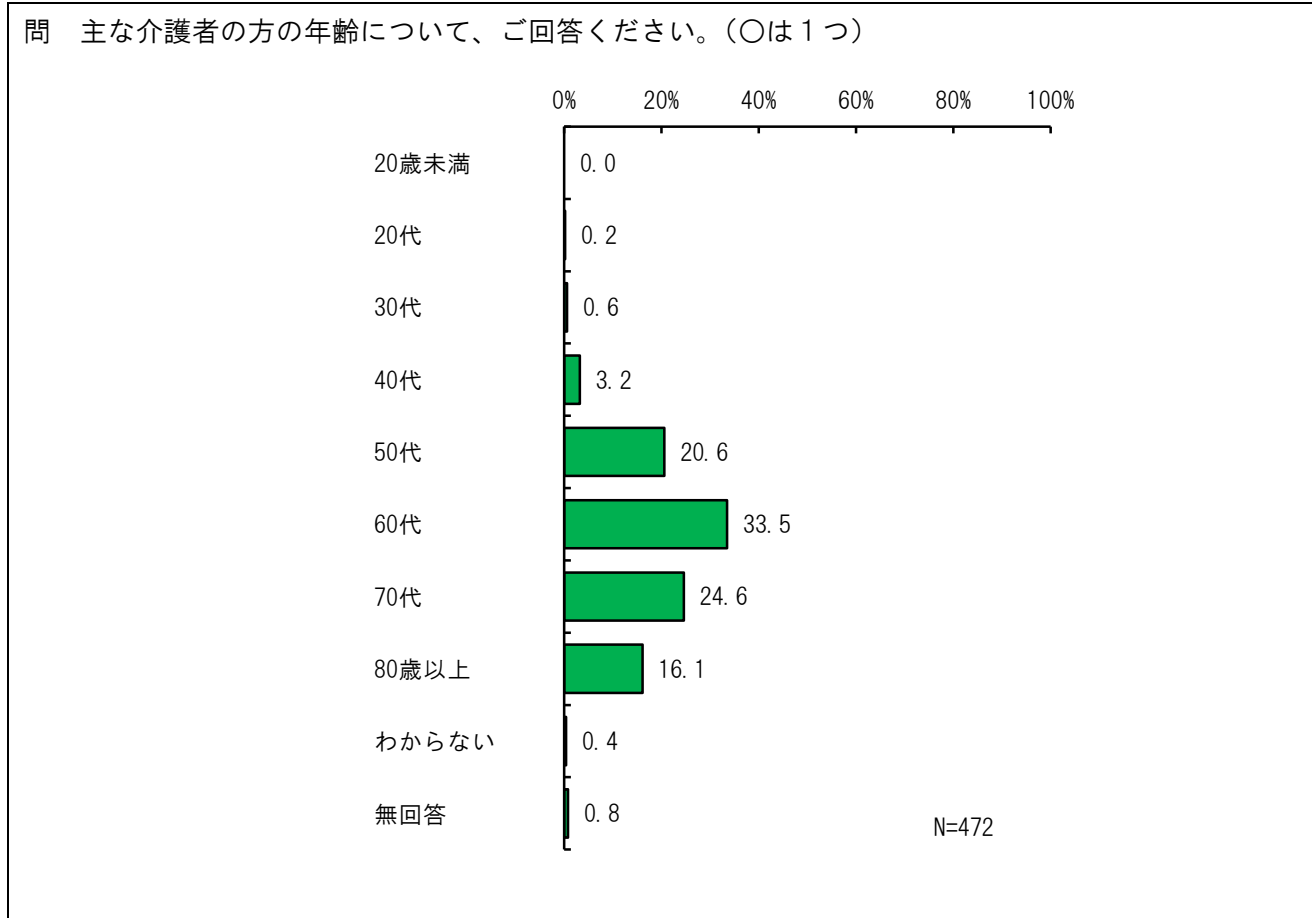
【総括コメント】

○自宅で最期を迎えたい一方で、準備ができていない可能性がある

“自宅で介護を受けたい”は、71.0%となっており、前回よりも上昇傾向にあります。また、希望する終末期の医療については、在宅医療の希望が多くなっています。延命治療についての考えを一度でも誰かと話し合ったことが「ある」が4割を超える一方で、リビング・ウイルを作成している割合は1割以下となっており、延命治療についての話をしている一方で具体的な準備に至っている割合は低いと考えられます。リビング・ウイルの認知が低いことから要介護者においても周知を展開していく必要があります。

6 主な介護者について

【要介護認定者 問27】



- ・主な介護者については、配偶者及び子（子の配偶者を含む）が94.7%を占め、性別では女性が68.4%を占めました。また、年齢は50代が20.6%、60代が33.5%、70代が24.6%、80代以上が16.1%で、50代以上が9割以上を占めました。

【総括コメント】

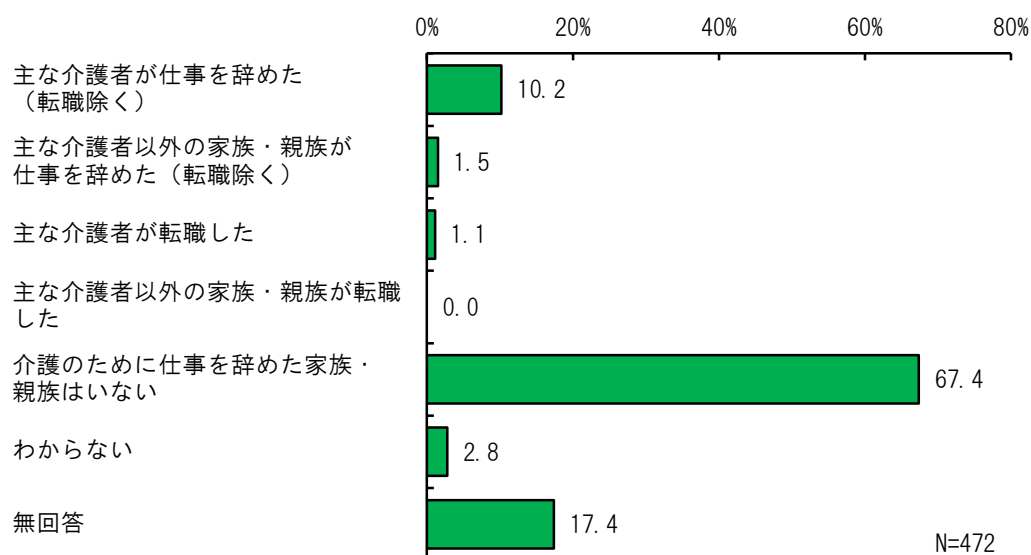
○70歳以上が介護を行う老々介護が約4割

主な介護者は配偶者及び子（子の配偶者を含む）が約95%と大半を占め、70歳以上が介護を行う老々介護が約4割となっています。介護離職については1割程度となっており、今後も働きながら介護を続けていけるかで、“続けていくのは難しい”も1割程度となっている一方で、高齢となっている介護者が多い点から、高齢の介護者への支援が求められます。

7 介護を理由に仕事を辞めた家族・親族

【要介護認定者 問32】

問 家族や親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。
(〇はいくつでも)

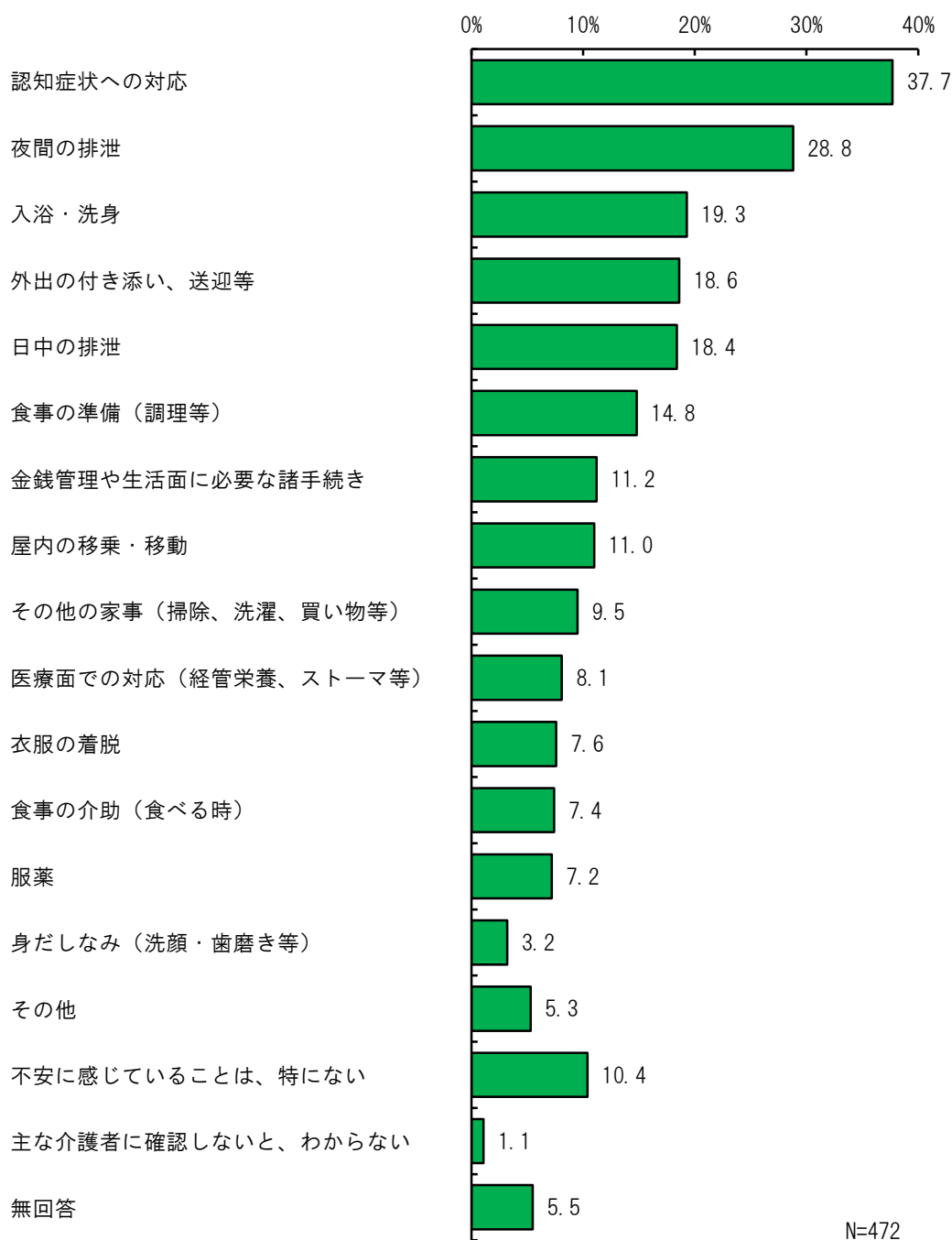


・過去1年に介護を理由に仕事を辞めた人はいるかでは、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が67.4%となりました。介護者にかかわらず仕事を辞めた、あるいは転職したと回答した人は、12.8%となりました。

8 現在の生活を継続していく上で介護者が不安に感じる介護

【要介護認定者 問33】

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護などは何ですか。
 (〇は3つまで) ※現状で行っているか否かは問いません。



・主な介護者が不安を感じている介護については、前回調査では「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」の順で多くなっていましたが、本調査では「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」の順で多くなりました。

【総括コメント】

○認知症への対応が主な介護者の悩み

主な介護者が不安を感じている介護については、前回調査と今回の調査両方で、「認知症状への対応」が最も多くなっている点から、介護者の主な介護の悩みは「認知症状への対応」であることがわかります。

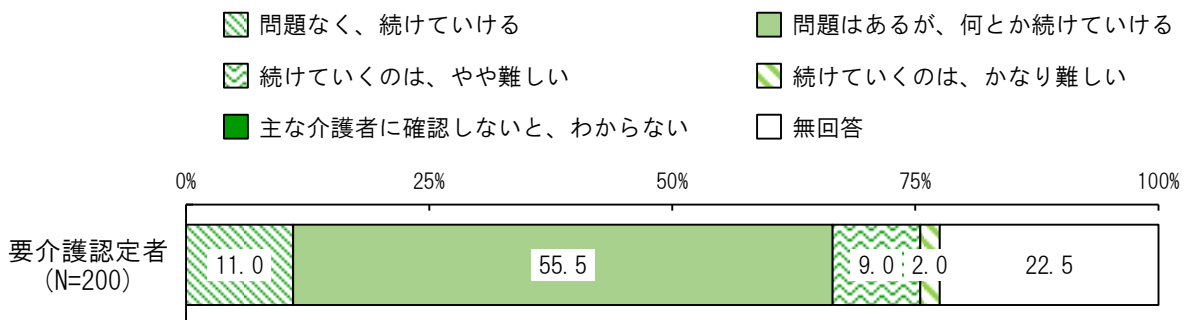
9 介護者の状況

今後も働きながら介護を続けていけるか

【要介護認定者 問34③】

問 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(○は1つ)

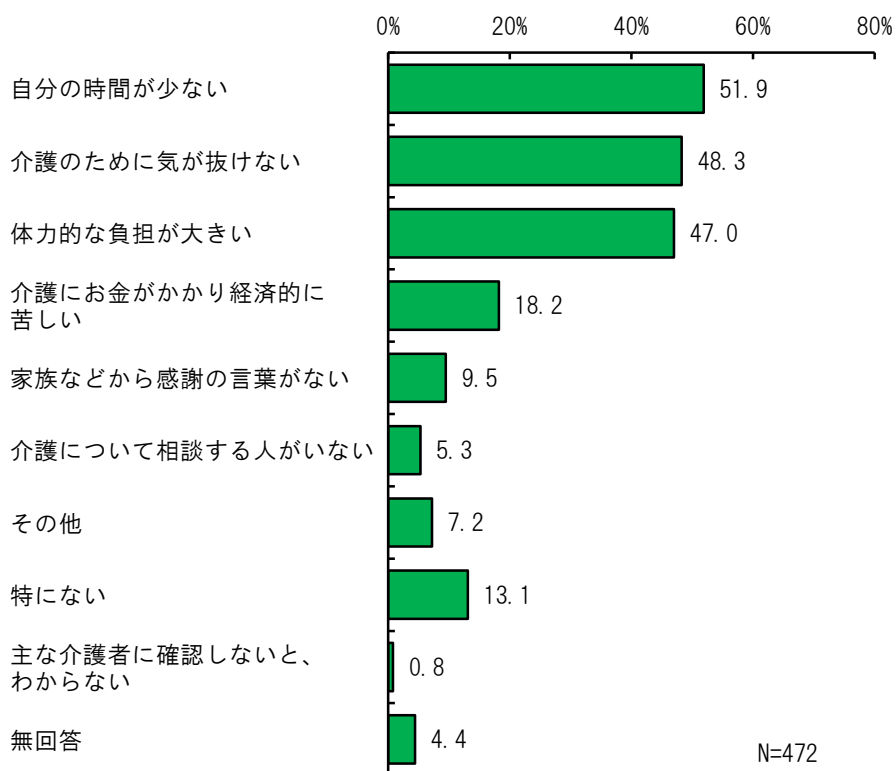
主な介護者の方が「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と答えた方のみ



介護をしていて感じる苦勞

【要介護認定者 問35】

問 主な介護者の方は、介護をしていてどんなことに苦勞を感じますか。(○はいくつでも)



・今後も働きながら介護を続けていけるかでは、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”は11.0%となりました。また、介護をしていて感じる苦勞については、「自分の時間が少ない」、「介護のために気が抜けない」、「体力的な負担が大きい」が多くあげられました。